



2009年10月3日
 発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 杉崎太吉
 所在地 町田市相原町 798-1
 電話 042(774)8005

11月1日に寺田和雄・前市長の「まちづくり講演会」 ぜひご参加して下さい

相原まちづくり協議会は「まちづくり講演会」を11月1日(日曜日)午後1時半から堺市民センターで行います。講師は前・町田市長の寺田和雄氏です。テーマは「文学のまち・相原」です。寺田氏は市長としての卓越した行政マンのほか、「わが山旅、まちだ文学散歩」「山憶い都市想い」の本を出版するなどの文化人です。相原ゆかりのある夕焼け小焼けの**中村雨紅**、相原が生んだ詩人・**八木重吉**の興味ある内容の講演が期待されます。是非、ご出席して下さい。町田市、相原地区連合町内会、相原保善会が後援しています。入場無料です。


まちづくり講演会開催のお知らせ

11月1日 (日曜日)

午後**1時30分** 開演

堺市民センター


演題 **文学のまち 相原**



講師

寺田和雄 氏

(前町田市長)



主催 相原まちづくり協議会 連絡先:042-774-8005 杉崎
 後援 町田市 相原地区連合町内会 相原保善会

な灰白色に煙っているのに、もう足元には麗らかに若草のみどりも芽え、宝石のかけらのような水が粘土の崖をきらきらと滴り、ちいさい山雀や四十雀の春の歌が、日光にあたためられた青い空間に響いていた」

これは、**尾崎喜八**が昭和34年3月3日、串田孫一や写真家の三宅修とともに相原の丘陵地帯を歩いたときの文章です。いかにも詩人らしい美しい文章ではありませんか。相原は町田市の西のはずれ、境川の最上流地帯です。ここまで来ると、多摩丘陵もようやく山岳性をおび、最後は大地沢をとりまく山々へとせりあがっていきます。

この日、氏の詩文集「山の絵本」の巻頭をかざる著者近影を撮るため、「あまりむずかしい顔をしていない」写真を、と三人で出かけてきたものでした。一行はその日一日中、春の日ざしをあびながら七国峠から権現谷へと続く丘陵の尾根歩きを楽しみ、夕日が高尾山のかなたへ赤々と傾くころ鍛冶谷の集落にくだりました。

一行の歩いた尾根は、ちょうど町田市と八王子の境界で、今では七国峠から先に「相武カントリークラブ」のゴルフ場などになってしまい、そのほかの山径はあまり入る人もなく荒れほうだいとのことです。宅地開発のさかんな町田市のなかでは、比較的自然が保たれている地域ですが……。

寺田和雄氏の著書「山憶い都市想い」の中で、相原について以下のような記述があります。

「風もなくおっとりとした暖かな日の午前、八王子で横浜線に乗り換えて二つ目だかの相原の駅でおりると、早くも清潔な静かな山間の自然だった。まだ冬枯れを思わせる雑木林がパステルのような薄いすみれ色や爽快

「相原駅周辺街づくり及び都道整備検討会」の進行状況

石井悟・相原駅周辺街づくり及び都道整備検討会座長

2006年10月に「相原駅周辺街づくり及び都道整備検討会」が発足して、はや3年になるろうとしています。この会は3年前の「多摩地区における都市計画道路の整備方針」の第三次事業化計画の中で、町田3・3・36号線（町田街道）が今後10年間で東京都施行により優先的に整備すべき路線として選定されたことに伴い、今後の街づくりの方策として大戸踏切の立体化と相原街づくりについて特に相原駅周辺の良好な地域環境、生活環境を実現することを目的に発足しました。

私は、たまたま3年前、相原地区連合町内会長という大役を仰せつかったことからこの会の座長という、これまた大役を引き受けたわけではありますが、何分にも街づくりにつきまはまったくの素人であり、いろいろと考えたあげくのことでありました。

現在までの活動内容ですが、年間5～6回の全体会議及び駅東、西、都道関係という三分科会方式により進めてきました。各分科会の活動は必要の都度、決め、討議を重ねてきました。「まだ結論が出ていないのか」というご意見もいただきますが、多くの問題点や検討項目があり、おいそれとはいかないのが現状です。検討会の中頃からコンサルタント

（街づくり）の専門的な意見も頂戴しながら、検討委員会・市・コンサルの三者、ときには東京都にもというような形で進めてきましたが、大筋の素案については、そろそろ完成できる状態になってきました。

今後は、相原あれあいフェスティバル2009などで経過のパネル展示やご意見などを頂戴したいと考えています。

今まで、各委員から多くの意見が出され、多く議論をしてきましたが、われわれの検討内容は今後の相原の街づくりに、さらに将来には欠かせないものと思います。

しかしながら、これには多くの課題が、ついて回ります。地域の自然、歴史、文化資源を十分に残して、人に優しい、人の集まる、そんな街づくりができればと願っています。私は、この検討会において地権者でもなく、該当地域に住んでいるわけではありませんが、相原町全体のこととして、この会のまとめ役として頑張っています。

この会の検討内容（構想案）は、なるべく早い時期に報告会を開催したいと考えています。報告会後は、新たな組織のもと、実現に向けての活動ができればと願っています。

始まった相原駅西口道路の排水工事

相原駅前西口の広場や道路の建設が、どうなっているのかとの問い合わせが相原まちづくり協議会に多くあります。このため、町田市の担当部署で進行状況を聞いてきました。それによると、用地買収が終了しているところから排水工事を実施しているが、まだ用地買収交渉中のところもあり、全体的には工事が遅れています。計画では平成23年度が完成予定になっているが、用地買収交渉の進展によっては、遅れることがあるとのことでした。

<3・4・49号線>

現在、実施している工事は、旧八千代銀行から中村公会堂の近くを通る3・4・49号線（南北通り）です。用地買収は完了して、



現在、排水工事を実施しています。この後、水道工事に入ります。それが終了すると、電線と電話線を地下に設置する電線共同溝工事になります。その後に、道路を整備する街築工事になり、完成します。

3・4・49号線は旧八千代銀行から境川を渡り、相模原市につながります。旧八千代銀行から境川間について、現在、用地買収交渉を行っています。相模原市では平成23年度に境川に新しい橋（相原橋）を架けることにしており、それに間に合うように相模原市側でも道路整備を進めています。

< 3・4・47号線 >

駅西口広場から中村公会堂の手前まで通る3・4・47号線は、用地買収交渉がほぼ完了しつつあるが、まだ建物1戸、土地で2カ所が残っています。用地買収がすべて終了しないと、排水工事などに入れません。用地買収が終了すれば、排水工事、電線などの電線共同溝工事、街築工事に入ります。

相原駅西口広場の用地買収は終了しているが、西口広場の造成は排水工事を3・4・47号線と一緒にを行うため、着工が遅れています。

相原でエコファーマーが増えています

化学肥料や農薬を少なくして、環境にやさしく、安全な農産物を生産する農家をエコファーマーと云います。エコファーマーの資格は東京都の認定が必要です。平成21年4月現在、町田市では66名のエコファーマーの認定者がいますが、そのうち相原町在住者は11名です。主にトマト、ほうれん草、大根、ジャガイモ、ヤマイモなど野菜を栽培する農家です。



アグリハウスで農産物を販売しています

現在、環境問題が世界的に深刻になっています。環境に配慮して、毎日食べる農産物は安全・安心でなければなりません。農水省は平成11年に「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」（持続的農業法）に基づき、化学肥料や農薬の使用を減らした農家を、各都道府県の知事の認定を条件に、エコ

ファーマーとしました。エコファーマーの条件は 化学肥料の使用を2割以上減らす 化学合成農薬の使用を2割減らす 地元の堆肥を使って良い土をつくるなどです。

生産者の組織であるJA町田市野菜部会堺支部は、部会全体で出荷農産物に対する生産履歴記帳の徹底に取り組み、環境に配慮した野菜づくりの研修活動を進めてきました。持続性の高い農業生産方式の導入の計画作りに取り組み、JA町田市や東京都南多摩普及センターの支援を受けエコファーマー認定申請を行いました。現地認定の結果、平成19年9月に会員全員がエコファーマーに認定されました。エコファーマーが生産した農産物はJA町田市堺支店の農産物直売所「アグリハウス堺店」で販売しています。同店は日曜、祭日以外は毎日午前9時から午後5時まで開店（但し第2土曜日は休み）。また、個人直売所などでも販売しています。エコファーマーとわかるように、のぼり旗を設置しています。

JA町田市堺支店経済課の若林剛さんは「地域でエコファーマーが作った農産物を見かけたら、農業者が環境問題や食の安心・安全に対して努力している印です。ぜひ、応援して、野菜選びの基準にして下さい。それが間接的には環境問題改善に貢献することになります」と呼びかけています。

盛大に開かれた堺市民センター祭り

堺市民センター祭りが7月4日、5日の2日間にわたり盛大に開かれました。

2階ホールではこうさぎ保育園、相原幼稚園、大戸小学校、堺中学校、武蔵岡中学校など合奏・合唱、吹奏楽、踊り、また、東京造形大のファッションショー、多摩美大のフラメンコ、地元の愛好家のカラオケ、ダンス、日本

舞踊、民謡踊りなどがありました。ギャラリーでは絵画、短冊、書道、押花作品、パッチワークなどの作品を展示。マーケットでは野菜、かき氷、鉢物、竹酢液、アイスクリーム、すいとんなどを販売しました。図書館ではおはなしの会、こども映画会などが開かれました。

あいはら遺産

今号より相原の名所旧跡を「あいはら遺産」として紹介します。散歩のついでに、ぜひ訪れてください。

せいすいじ清水寺は町田街道と国道16号の交わる相原交差点から100m位高尾寄りに位置する古刹こまつです。清水寺の観音堂の脇に石碑が2つあります。今回はその石碑を紹介します。

観音様縁日を10月29日11時より清水寺境内で行います。13時にジャズ演奏もあります。



「善寧児先生碑」

1980年天然痘の根絶が宣言されましたが19世紀半ばまで、中世のヨーロッパでは最も恐ろしい伝染病でした。イギリスのエドワード・ジェンナーは1796年5月14日に牛痘ぎゅうとうによる天然痘予防法を成功させました。日本ではジェンナーの種痘から約50年後の江戸時代末期に大阪で緒方洪庵が、江戸では伊藤玄朴が種痘の実験に成功しました。相原村の豪農 青木得庵は伊藤玄朴から痘苗とうびょうを入手し、末子桃吉を実験台に接種を試み成功させました。この頃、種痘は疱瘡ほうそうの膿うみを植えるのだから牛になるなどの流言が飛び交った時代でしたが、粘り強く説いて回り普及につとめました。得庵の妻喜代が、晩年種痘の普及を記念してこの「善寧児先生碑」を建立しました。石碑の裏面には 明治25年4月建之と記されています。



「近藤先生碑」

近藤勇は幕末、新撰組の局長として活躍しました。この近藤勇は武州多摩郡上石原村(現在の調布)で宮川家の末っ子として生まれました。幼少の頃から剣術に長け、15歳の時「天然理心流」3代目の近藤周助(小山村の名主島崎家の三男で後に近藤姓を名乗る)の養子になり後年4代目を継ぎました。この「天然理心流」の初代は近藤内蔵之助で、2代目近藤三助と手合わせしたことにより編み出したとされています。2代目近藤三助は武州多摩郡戸吹村(現在の八王子)なぬしの名主で八王子千人同人の組頭でした。後に天然理心流の指南免許を受け2代目を襲名します。多くの弟子を育てましたが、1819年45歳の時 相原村で客死しました。後年その功績を称える為、終焉のこの相原の地に石碑が建てられました。石碑には建立に関係した人たちの名前が多く刻まれています。